

# わかりやすい佐世保市の決算書

～令和6年度普通会計決算～



佐 世 保 市

## 目 次

はじめに	1
1. 決算ってなに？	2
2. どんなお金が入ってきたの？	3
3. どんなことにお金を使ったの？	5
4. 具体的にどんなことをしたの？	10
5. 貯金や借金はどれくらいあるの？	16
6. 佐世保市の財政状況はどうなっているの？	17
7. 令和 6 年度決算を振り返って	20

## は じ め に

佐世保市では、市民の皆さんに、市政運営に関する情報をより広く知っていただきたいと考えています。決算については、決算書や主要な施策の成果の説明等を公表していますが、これらは主に数字や文章で書かれており、慣れていない方にとっては少し読みにくいものとなっています。そこで、多くの市民の皆さんに佐世保市の決算状況や税金の使い道などを分かりやすく知ってもらいたいという思いから、本冊子を作成しています。

佐世保市では、道路の整備や子どもたちの教育、社会福祉全般、ごみの収集など、皆さんの生活に密着した様々なサービスを提供しています。

この冊子を通して、市の事業や財政状況に関するご理解を深めていただけると幸いです。

（注１）本冊子では、分かりやすい表現を重視しています。

（注２）本冊子では、総務省が定めた全国一律のルールにより算出した、普通会計決算に基づいた決算額を記載しています。



# 1

## 決算ってなに？

市はあらかじめ、どんなお金が入り、どんなことにいくら使うかという計画を立てています。

これを「予算」といいます。

この計画に対し、実際にどれだけのお金が入ってきて、どれだけのお金を使ったのかをまとめたものを「決算」といいます。

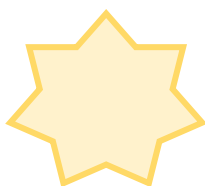
計画どおりにきちんと使われたのか、市民の代表者が集まる議会などで内容を確認していただいています。

### ★予算から決算までの流れ



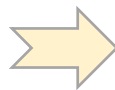
#### 予算編成

1年間にどれくらいのお金が入ってくるかを見込み、お金の使い方の計画（予算）を立てます。



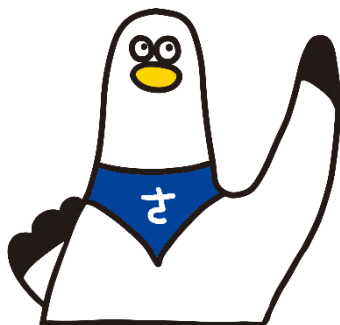
#### 予算執行

お金の使い方の計画（予算）に沿ってお金を使っていきます。



#### 決算

計画に対して実際にどれくらいのお金が入り、使ったのかを公表し、議会で承認をいただきます。

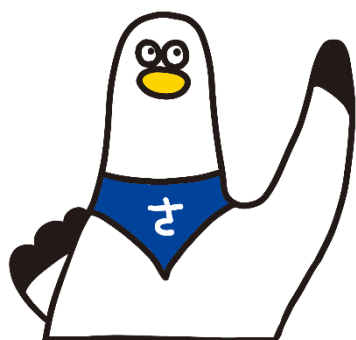
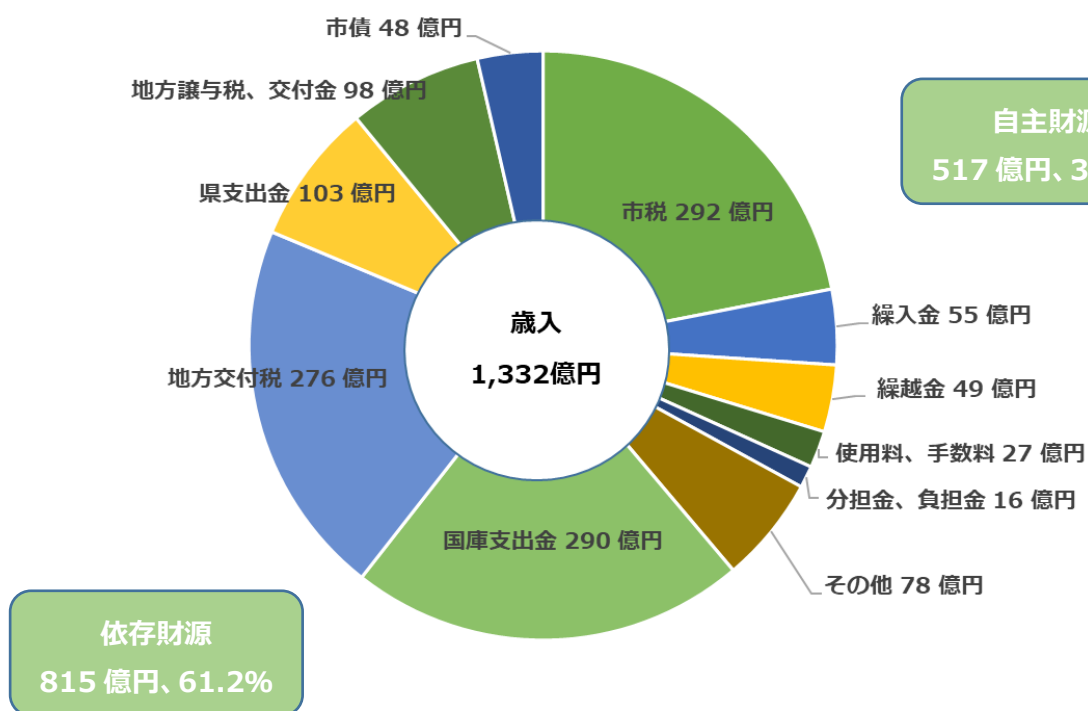


1年間の予定を立ててお金を使っていくけど、台風などの自然災害の発生や、新型コロナウイルス感染症などの社会情勢の変化などによって、状況が変化することがあるよ。これらの予定していなかった事態に対応するために、年度途中で計画を変更することがあり、これを「補正予算」というよ。

## 2

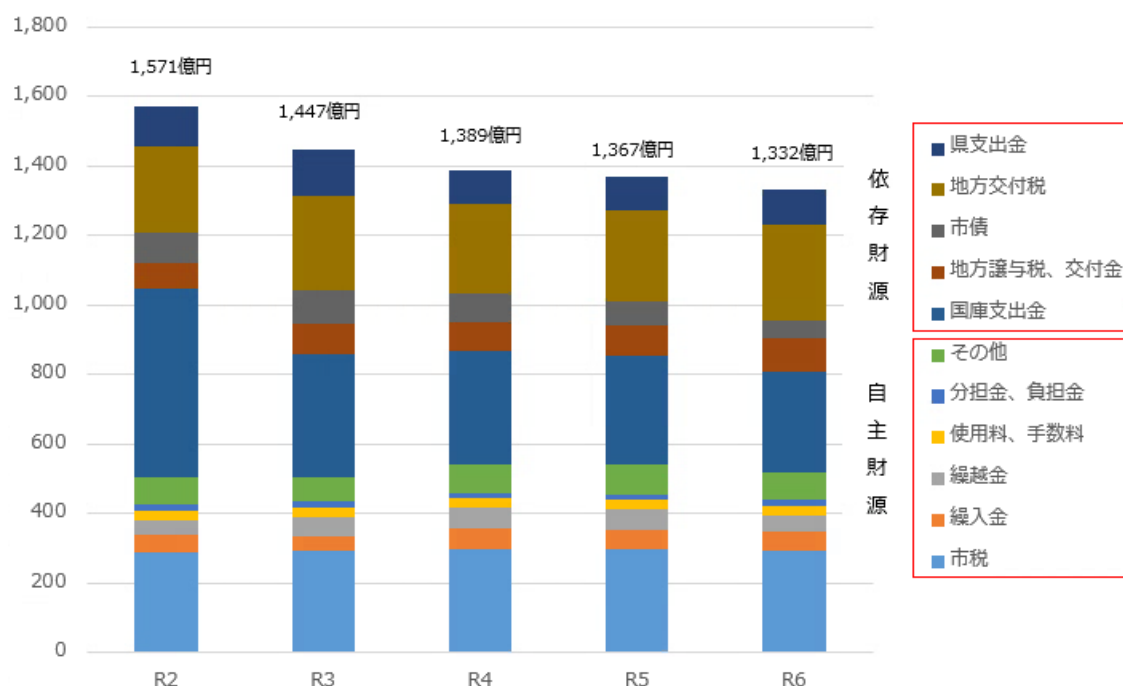
## どんなお金が入ってきたの？

令和6年度の決算では、入ってきたお金（歳入）は、1,332億4,909万円となりました。費目別では下記のとおりとなっており、市内に住んでいる人が納める個人市民税、市内に事務所がある法人が納める法人市民税、市内に土地や家などを持っている人が納める固定資産税といった税金のほか、国や県から入ってくるお金、施設の使用料、銀行などからの借金、貯金を取り崩したお金などがあります。



「市税」から「その他」までは自主財源といい、その割合は全体の約 38.8%となっているよ。それ以外は依存財源といい、全体の約 61.2%を占めているね。市民の皆さんからいただいた税金は自主財源の多くを占めていて、市の重要な財源になっているよ。それぞれの項目については8ページで解説するね。

過去5年間の歳入の推移（費目別）



### 解説

過去5年間の佐世保市の歳入の推移をグラフで示しています。歳入全体は昨年度より2.6%減少しました。特に、「国庫支出金」と「市債」が大きく減少しており、これは新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減少や公営住宅建設費の減少などにより市債の借入額が減少したためです。

令和2年度は歳入決算額が大きくなっていますが、これは令和2年度に新型コロナウイルス感染症による経済的影響への緊急経済対策として、1人10万円の特別定額給付金が支給されたことによるものです。この給付金自体は佐世保市が支給しますが、それにかかった費用は全て国庫支出金として佐世保市に入ってきています。

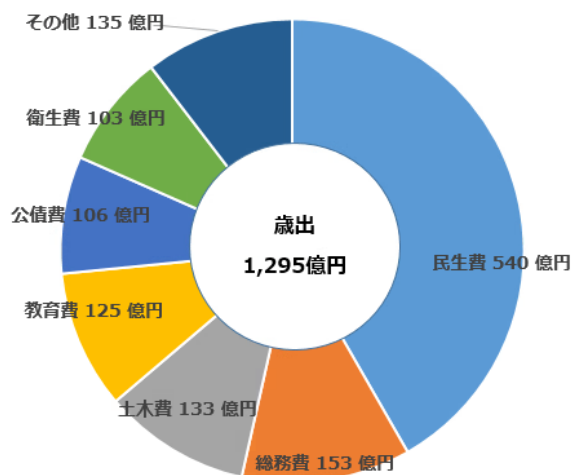
自主財源についてはほぼ同水準で推移していますが、上記のような国の経済対策などがあった場合、依存財源の規模が変動するため、それに合わせて決算規模も増減することとなります。

### 3

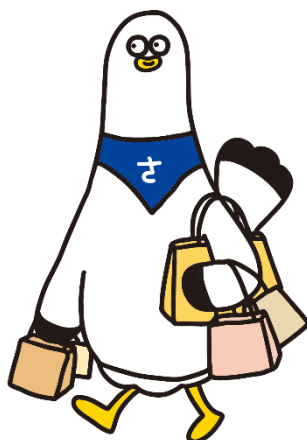
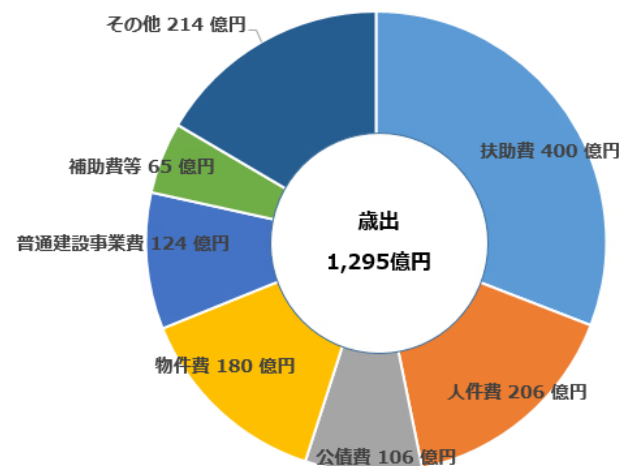
### どんなことにお金を使ったの？

令和6年度の決算では、使ったお金（歳出）は、1,294億6,222万円となりました。  
「何のために使ったのか」という観点で分類したものが目的別、「どんなことに使ったのか」という観点で分類したものが性質別という分け方です。

#### 目的別

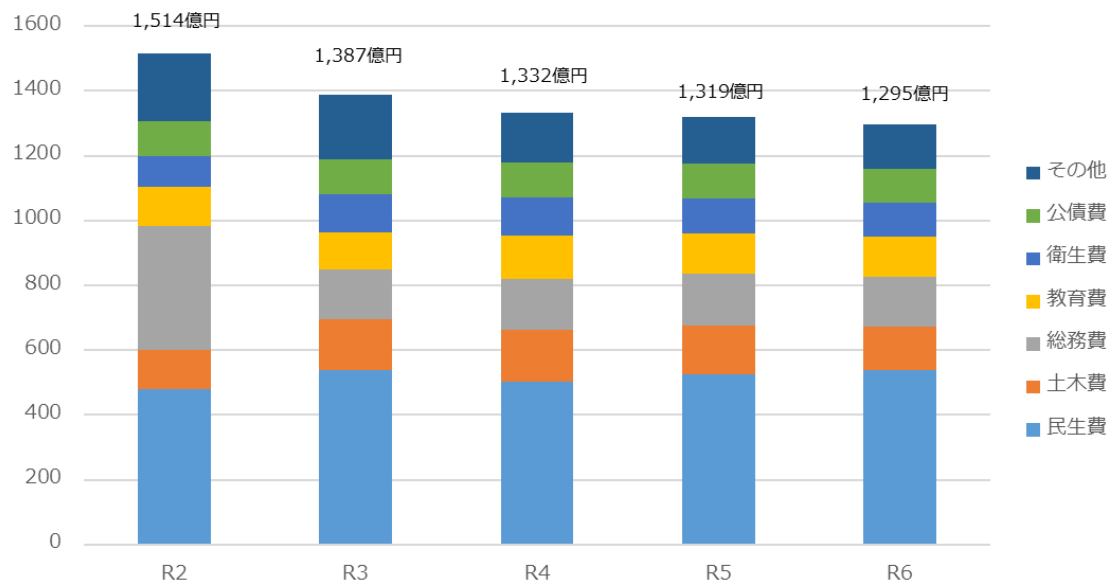


#### 性質別



目的別では民生費が540億円で、歳出全体の約41.7%を占めているね。性質別では扶助費、人件費、公債費を「義務的経費」というけど、それらで歳出全体の約55.0%を占めているよ。義務的経費については支出することが制度上義務づけられているから、削減することが難しい経費だよ。それぞれの項目については9ページで解説するね。

過去5年間の歳出の推移（目的別）



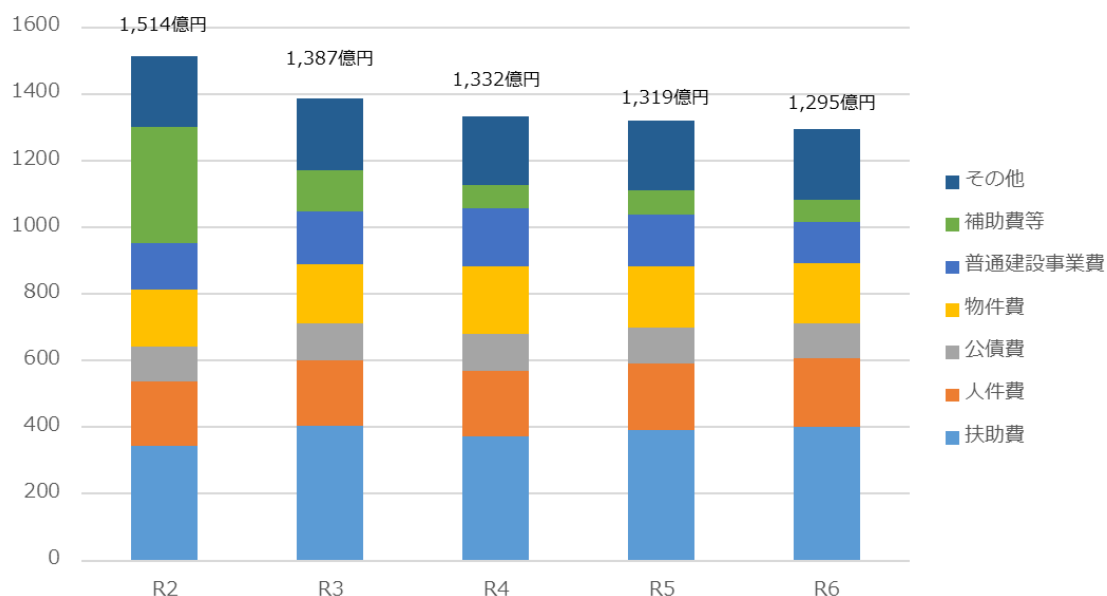
#### 解説

過去5年間の佐世保市の歳出（目的別）の推移をグラフで示しています。歳出全体は昨年度より1.8%減少しています。特に、「土木費」と「総務費」が減少しており、これは前畑崎辺道路整備に係る経費の減少や、老朽化が進んでいた市本庁舎のリニューアル経費が皆減となったためです。また、「民生費」は増加しており、これは定額減税補足給付金や物価高騰対策臨時給付金の支給が皆増となったためです。

本市の特徴として、子どもや高齢者、障がい者などへのサービスを提供するための「民生費」の割合が大きく、高齢化の影響などで今後も増える見込みとなっています。



過去5年間の歳出の推移（性質別）



#### 解説

過去5年間の佐世保市の歳出（性質別）の推移をグラフで示しています。義務的経費（人件費・扶助費・公債費）は昨年度より1.9%増加しました。特に「扶助費」が増加しており、これは定額減税補足給付金や定額減税補足給付金の支給が皆増となったためです。

扶助費は子どもや高齢者、障がい者などを支援するためのお金のことですが、毎年、歳出の多くを占めていることが分かります。扶助費については民生費と同様、高齢化の影響によってこれからも増加することが見込まれています。

また、老朽化した公共施設の補修・更新や学校再編などによる普通建設事業費の増加が今後見込まれています。

## 歳入の分類

項目	説明
<b>自主財源</b>	<b>市が自主的に収入できるお金</b>
市税	市民の皆さんから納めていただいた税金 (市民税、固定資産税、都市計画税など)
分担金、負担金	市の行う事業により利益を受ける方からいただくお金 (保育料など)
使用料、手数料	市の施設の利用や特定の事務により利益を受ける方からいただくお金 (テニスコート使用料、住民票の写しの交付手数料など)
財産収入	市が有する財産の売払い等により得たお金 (土地売払収入など)
寄附金	市にいただいた寄附金 (ふるさと納税寄附金など)
繰入金	各会計からの資金の受け入れ、基金の取り崩しなど (預金の引き出しなど)
繰越金	前年度に余ったお金
諸収入	その他の収入 (指定ごみ袋代、宝くじ交付金など)
<b>依存財源</b>	<b>国や県の基準により決まった額を交付されるお金</b>
国庫支出金	国から佐世保市に交付されるお金
県支出金	県から佐世保市に交付されるお金
地方交付税	国税の一定割合を財源として、国が一定の基準により市に交付する お金
地方譲与税、交付金	国や県から一定の基準により譲与、交付されるお金
市債	市が国の機関や銀行等から借り入れるお金

### 解説

表の色がついている箇所は「一般財源」と言い、使い道が決まっていないお金で、どの事業にも使う  
事ができるお金のことを言います。それ以外の財源は「特定財源」と言い、使い道が決まっているお  
金のことを言います。

## 歳出の分類

### 目的別

項目	説明
議会費	議員報酬や議会の運営にかかるお金
総務費	庁舎管理、市税の賦課徴収、戸籍の管理、選挙などにかかるお金
民生費	社会保障や福祉施設の管理・運営などにかかるお金
衛生費	予防接種やがん検診、ごみ収集などにかかるお金
労働費	労働者の就労支援などにかかるお金
農林水産業費	農業の振興や山林の管理などにかかるお金
商工費	商工業の振興や、観光の推進などにかかるお金
土木費	道路、公園、市営住宅などの整備や維持管理にかかるお金
消防費	消防や防災などにかかるお金
教育費	教育環境の整備や社会教育などにかかるお金
公債費	借金の返済金

### 性質別

項目	説明
<b>義務的経費</b>	<b>制度的に義務付けられた経費</b>
人件費	職員の給与や議員報酬にかかるお金
扶助費	子どもや高齢者、障がい者などを支援するためのお金
公債費	借金の返済金
<b>裁量的経費</b>	<b>政策により柔軟に増減できる経費</b>
物件費	消耗品や印刷代、光熱水費などのお金
維持補修費	道路や施設などの修理にかかるお金
補助費等	民間に対する補助金、他の公共団体に交付される交付金など
積立金	財政運営を計画的に行うための貯金
投資、出資、貸付金	中小企業の経営安定化を目的とした貸付金など
繰出金	他の会計に支払うお金
普通建設事業費	道路や施設の工事などにかかるお金
災害復旧事業費	台風などの災害により被害を受けた施設等を復旧するためのお金

令和6年度に実施した主な事業について、目的別に紹介します。

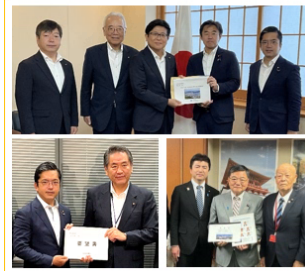
議  
会  
費

市政推進事業

387万円

- ・市政推進のため、当面する課題について、市長とともに国等に対し要望活動を展開しました。
- ・基地問題や交通問題など、市議会として課題解決のため、調査研究等を行い、国等に対し要望活動を展開しました。

- 国要望活動 (8月6日～9日)
- 基地政策特別委員会要望活動 (8月19日～21日)
- 交通体系整備特別委員会要望活動 (11月20日～21日)



公共交通活性化事業

1,478万円

- ・持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指し、佐世保市・佐々町地域における「地域公共交通計画」及び「利便増進実施計画」を策定しました。



UJターン推進事業

3,637万円

- ・県外からの移住者への引越支援などの補助を行いました。
- ・県や関係団体と協力しながら、移住相談や地域の魅力の情報発信を行いました。
- ・西九州させば広域都市圏の魅力発信を行い、将来的な移住者となり得る関係人口の創出・拡大を図りました。



佐世保市文書生成AI導入事業

660万円

- ・業務効率化・高質化を目的に、職員が行う文書作成や企画立案業務等を補助する庁内向け文書生成AIを導入しました。



政策経営事業

878万円

- ・EBPMの考え方に基づく外部の視点による点検・評価と事業改善等の取組として、各政策・施策の実現のため、外部の視点による点検・評価、施策等のロジックモデルの構築支援（伴走支援）を行いました。



総  
務  
費

## 総務費

### コミュニティセンター保全事業（江迎・黒島）

4億4,437万円

- ・地域コミュニティや社会教育の活動の場を提供するため、佐世保市公共施設適正配置・保全第2期実施計画に基づく整備を進めました。
- ・江迎地区複合施設を令和6年10月1日に供用開始しました。（江迎地区コミュニティセンターと江迎支所を複合化）
- ・黒島地区複合施設の建設工事の進捗を図りました。（黒島地区コミュニティセンターと黒島支所・診療所を複合化）



### クラウドファンディング型プロジェクト応援事業

2,849万円

- ・佐世保市内で文化・芸術にまつわるプロジェクト実現に取り組む方々の資金調達の支援を行いました。



### 国民文化祭推進事業

2,500万円

- ・令和7年度の国民文化祭開催に向けて、事業準備やプレイベントを実施しました。



## 民生費

### 私立保育所等運営費（施設型給付費・地域型保育給付費）

1億7,131万円

- ・子育てにかかる経済的負担の軽減や国が掲げる共働き・共育の推進を目指すため、同時在園での第2子（1・2歳児）の保育料無償化を実施しました。



### 福祉医療支給費

7億6,858万円

- ・妊娠、出産、子育てに至る切れ目のない支援の一環として、乳幼児、小中学生、高校生世代および、ひとり親家庭等の医療費を助成しました。令和6年10月分の医療費から、小中学生とひとり親家庭等に対して、現物給付方式による助成が受けられる地域を県北地域まで拡大しました。



### こども家庭センター（すこやか子どもセンター）の設置

961万円

- ・妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目のない支援や虐待予防を行うため、母子保健業務と児童福祉業務に携わる保健師や社会福祉士などによる連携・協働した相談体制を構築しました。





衛生費

特定不妊治療費（先進医療）助成事業

391万円

- ・不妊治療のうち、生殖補助医療に併せて行われた先進医療に要する費用の一部を長崎県の制度に呼応し助成しました。



産後ケア事業

1,667万円

- ・令和6年度から、訪問ケア、デイケア及びショートステイの利用負担額を全部または一部減免し、医療機関や助産院で、産後1年を経過しない産婦に心身のケア等のサービスを提供しました。



診療所新規開設・承継支援事業

5,654万円

- ・地域医療の重要な担い手である医師を確保することを目的とした取組です。市内診療所の新規開設又は承継に伴う施設・設備整備に係る費用の一部を医師又は医療法人等に対し補助する事業で、令和6年度は小児科2施設に対して補助を行いました。（※うち1施設は、R5⇒R6繰越事業）



カーボンニュートラル推進事業（地球温暖化対策事業）

5,444万円

- ・ゼロカーボンシティの実現に向けて、市域の温室効果ガス排出削減を目的に、置き配バッグの無料配布および省エネ家電の購入に対する環境行動へのインセンティブ付与（地域通貨「させばeコイン」活用）を実施しました。

- 置き配普及啓発事業      置き配バッグ    1,500個
- 省エネ家電購入促進事業    対象家電3種    2,241台



労働費

労働雇用対策費

1,757万円

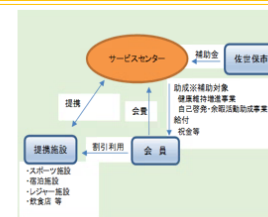
- ・「お仕事情報プラザ」を運営し、女性やUターン求職者への職業紹介事業を行いました。
- ・企業の認知度向上の実現を目指し、イベント等の開催に対して補助を行いました。



勤労者福祉推進事業

1,273万円

- ・市内中小企業や勤労者の福祉の増進や、市内企業への就業定着を目的として、福利厚生の実施や勤労者福祉増進に寄与する関係団体への補助を行いました。



養殖業育成事業（赤潮監視装置設置）

464万円

- ・ 例年5月から11月にかけて養殖魚や貝類をへい死させ、漁業被害を発生させる赤潮プランクトンを早期発見し、漁業被害を防止するために、赤潮監視装置（テレメータ）を設置を行い、赤潮の発生を早期に発見し、被害軽減に寄与しました。

○広域でリアルタイムモニタリングを行うため、平戸市に1基、佐世保市に2基の合計3基設置しました。



農畜産業スマート化・高品質化支援事業

2,093万円

- ・ なすの生産者団体が導入する自動選果システムへの支援を行いました。
- ・ 花き団体の品質向上への支援を行いました。



ため池防災減災事業（劣化状況評価及びため池廃止工事）

4,101万円

- ・ 防災重点農業用ため池の劣化状況評価の結果、経過観察が47箇所、防災工事等（廃止工事含む）47箇所となり、その内、農業用水として利用されていない防災重点農業用ため池（2箇所）の廃止工事を実施しました。



デジタル人材育成事業

345万円

- ・ DX推進の担い手となるデジタル人材の育成・確保を図るため、IT分野に関心のある市民の方を対象にプログラミング講座を開催し、基礎的なスキルを習得する機会を提供しました。また、受講生と市内企業との就職マッチング支援にも取り組みました。



観光客誘致促進事業

9,318万円

- ・ （公財）佐世保観光コンベンション協会等関係団体実施の広報宣伝・誘致活動等を支援し、コンテンツツーリズムの推進等、観光客誘致促進を図りました。



東山手上部線道路整備事業

3億8,708万円

- ・市北部地域の渋滞対策を目的とした幹線市道の新設を行うものであり、地域の交通環境改善に資する本道路の整備を、引き続き実施しました。（山手町）

山手橋  
橋長 L = 71.5m  
道路幅員W = 6.5m（車道）



陣ノ内踏切整備事業

1億909万円

- ・踏切が狭くて危険であるなど地域課題を解決するため、安全で快適な道路環境の整備を行いました。（陣の内町）

工事延長L = 34.3m  
道路幅員W = 4.5m（車道3.0m、歩道1.5m）



都市再生整備計画事業

1,314万円

- ・公民連携の手法を軸とした都市の再生に寄与する事業である「まちなかウォークアブル推進事業」を進捗させるため、夜店公園において公民連携で社会実験等を行いながら、ワークショップで公園の使い方を考え、空間デザイン案を構築しました。  
※右画像はワークショップでの空間デザイン案です



都市公園ストック再編事業

3,296万円

- ・住宅地内に、同じ遊具を設置している公園が複数あるなど機能が同じ公園を役割分担し、利用しやすくするため、地元と意見交換を行いながら、公園を再整備しました。



ポートセールス振興業務

6,052万円

- ・佐世保港へのクルーズ客船の寄港促進を図るため、国内外の展示商談会におけるセールス並びに船社等への誘致訪問を実施しました。また、寄港に合わせて船社や旅行社と連携した特別イベントを開催し、その取組みが評価され「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024 特別賞」を受賞することができました。





# 土木費

## 鯨瀬ターミナル周辺機能再編事業

3億2,890万円

- ・施設利用者の利便性の向上や安全性を確保するとともに、フェリーの運航事業者が安全で運航に支障のない快適な施設利用ができるように、フェリー係留場所の2バース化整備に向けて旧岸壁の撤去工事を行いました。



# 消防費

## 防災訓練事業

309万円

- ・災害時の関係機関との連携強化、および市民の防災意識啓発のため、総合防災訓練を開催しました。
- ・地域防災力の向上のため、4地区の自治協議会で地域型防災訓練を開催しました。



# 教育費

## 立神広場整備活用事業

8,967万円

- ・日本遺産「鎮守府・佐世保」のガイダンス施設となる「させば立神近代化歴史公園」の令和8年11月の供用開始を目指し、整備を進めました。



## 福井洞窟特別史跡指定記念事業

541万円

- ・吉井町に所在する福井洞窟の特別史跡指定を記念して、市民の機運醸成を目的とした体験イベント「CAVEフェス〜洞窟で遊ぶ、学ぶ〜」を開催しました。



## 学校給食事業、学校給食費相当額助成事業

21億1,161万円

- ・佐世保市の学校給食は、小学校・中学校・義務教育学校の全校で完全給食を実施しています。令和6年度は、中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒の学校給食費の無償化を実施するとともに、学校給食費相当額助成事業を併せて実施し、子育て支援及び教育環境の充実を図ることができました。

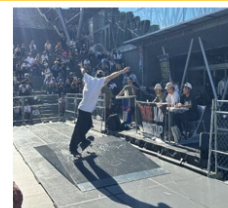
- 学校給食の実施 21億105万円
- 学校給食費相当額助成事業 1,056万円



## スポーツによるまちの活性化事業

1,494万円

- ・まちの賑わいづくりのため、アルカスSASEBOにて、ストリートカルチャーフェスティバルと連携したスケボーイベントを開催しました。



## 5

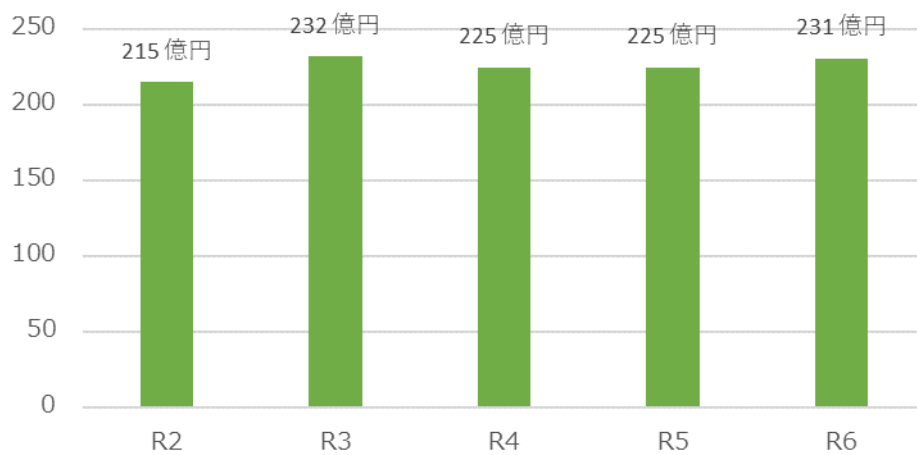
## 貯金や借金はどれくらいあるの？

市では、貯金のことを「基金」、借金のことを「市債」と呼んでいます。

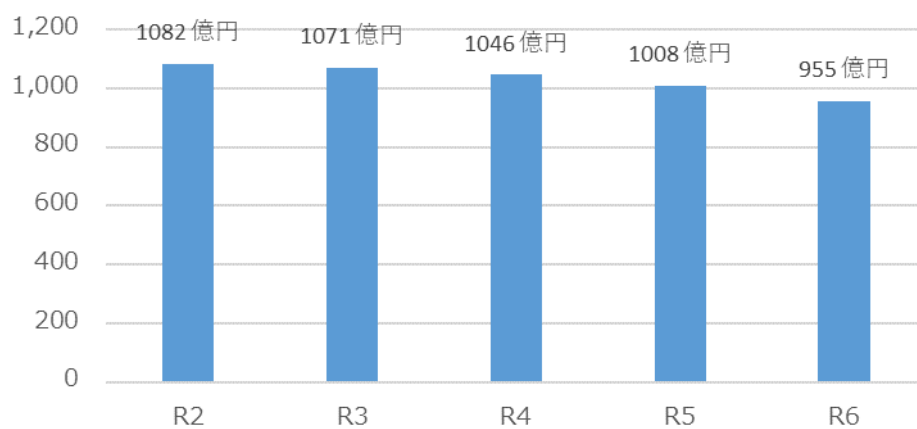
令和6年度末の基金（貯金）残高は230億9,219万円となっており、昨年度から5億4,361万円増加しました。基金残高は引き続き目標としている水準を維持しており、不測の事態に備える体制は確保できています。

また、令和6年度の市債（借金）残高は954億7,995万円となっており、昨年度から53億6,491万円減少しました。

基金残高の推移



市債残高の推移

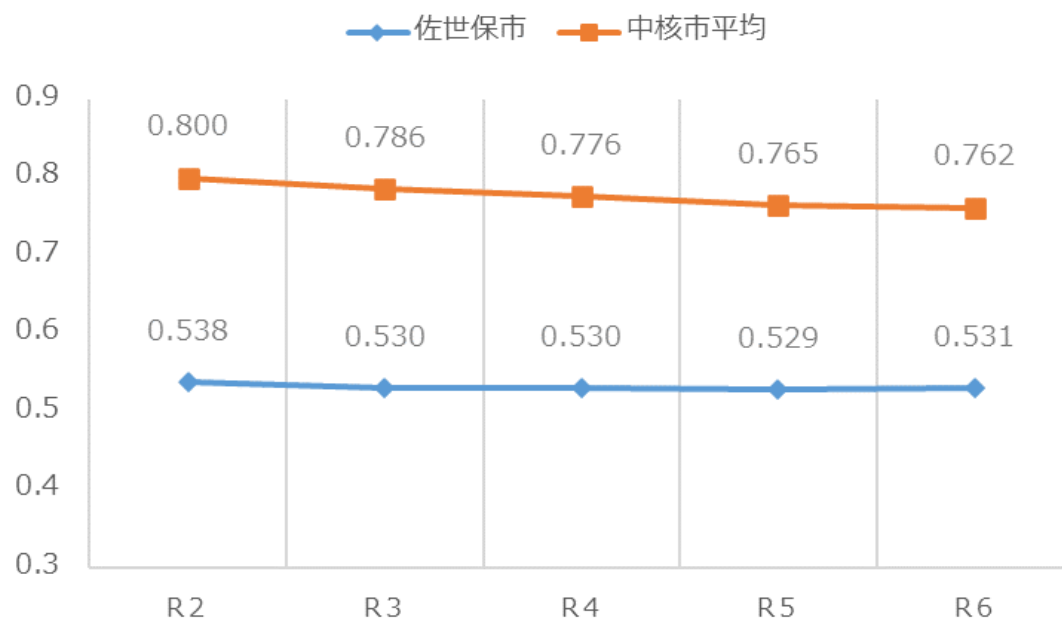


## 6

## 佐世保市の財政状況はどうなっているの？

ここでは、佐世保市の財政状況を示す指標を3つ抜粋し、解説していきます。

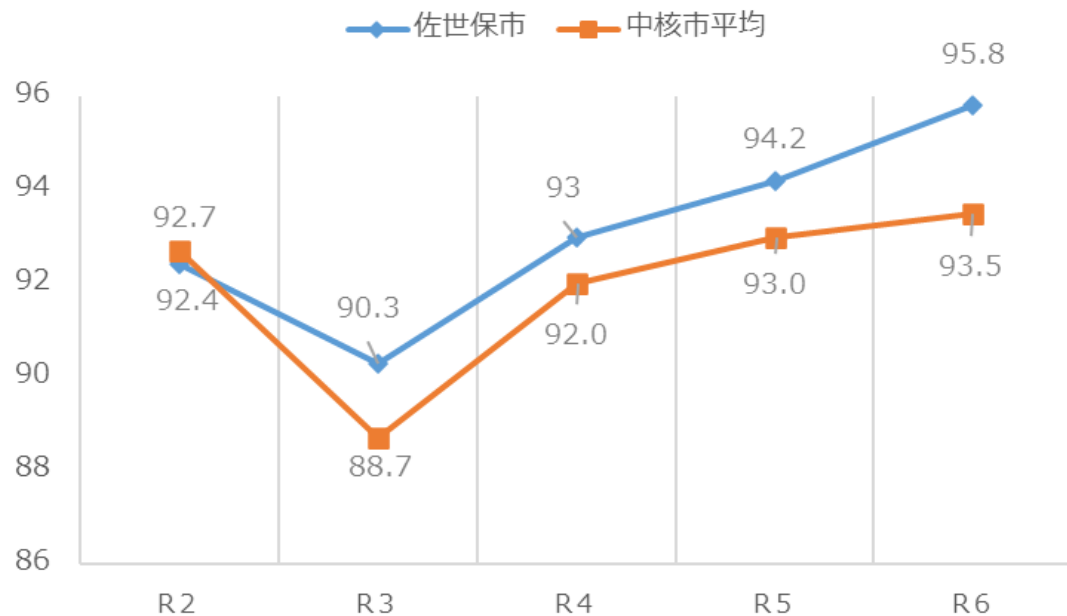
## (1) 財政力指数（3 か年平均）

**解説**

財政力指数とは市の財政力を示す指標で、標準的な行政経費に対する、市税等の一般財源収入の割合を過去3か年の平均で算出したものです。簡単に言うと、「標準的な行政サービスを提供するために必要なお金をどれだけ自己の財源で賄えているか」を示す指標で、数字が高ければ高いほど良い指標になります。

佐世保市の令和6年度の財政力指数は0.531となっています。令和6年度の中核市平均は0.762となっており、佐世保市は他の中核市と比較して、行政経費に対する市税等の一般財源の割合が低いことが分かります。

## (2) 経常収支比率



### 解説

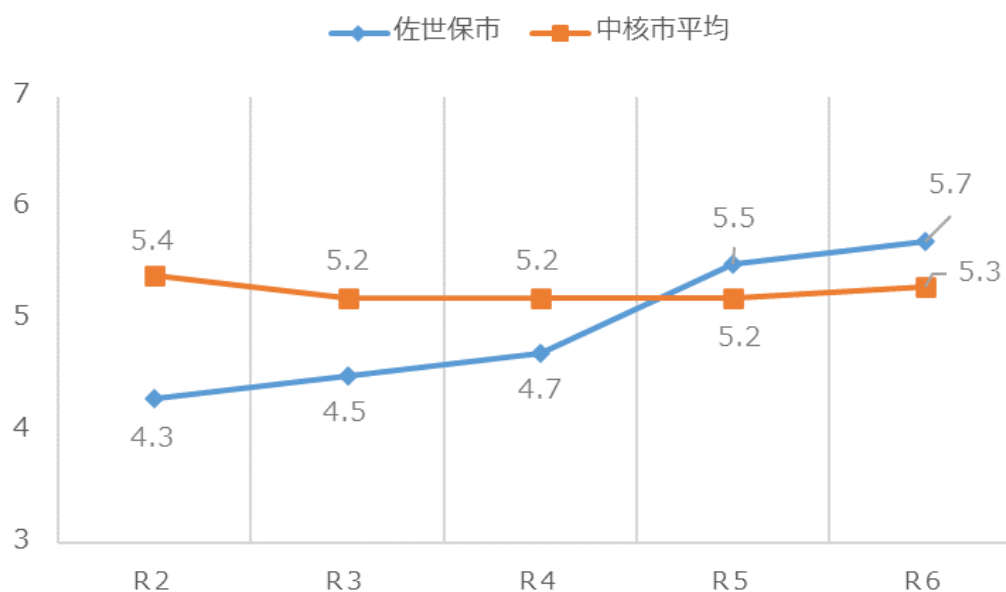
経常収支比率とは、経常的に入ってくるお金のうち、経常的に使用するお金の財源となったものの割合を示すものです。この数字が高いほど、臨時的に必要な事業などにお金を回すことが難しくなるため、数字が低い方が良い（弾力性が高い）指標となります。

（例）家計で例えると・・・

給料などの経常的な収入に対して、食費や家賃などの生活費や教育費などの経常的な支出の割合が大きくなると、突発的な事故などで急な出費が発生した時にお金を回すことが難しくなります。

佐世保市の令和6年度の経常収支比率は95.8となっており、令和6年度の中核市平均は93.5となっていることから、佐世保市は中核市平均と比較すると高くなっています。

### (3) 実質公債費比率



#### 解説

実質公債費比率とは、通常見込まれる収入に対する借金返済のためのお金の割合のことで、少なければ少ないほど借金の負担が少ないことを表しています。

佐世保市の令和6年度の実質公債費比率は5.7となっており、令和6年度の中核市平均は5.3となっていることから、佐世保市は中核市平均と比較するとやや高くなっています。



ここでは3つの指標を見てきたけど、同規模の他団体と比較して財政力指数は低く、経常収支比率、実質公債費比率は高くなっていることが分かったね。一見、借金の負担額が多くなったように見えるけど、借金残高は大幅に減少しているよ。

でも財政力指数が低く、市税などの一般財源は他市と比較して少ないから、収入を増やすための努力をしていく必要があるね。

令和 6 年度の決算では、歳入歳出の差引で約 37 億円の黒字となりました。この余ったお金は翌年度の繰越金となり、令和 7 年度の事業に活用されることとなります。

令和 6 年度は、第 7 次総合計画（後期基本計画）のスタートの年であることを踏まえ、本計画に掲げるまちづくりの実現に向け、本市が持つ多様な資源を活用し、本市の可能性や魅力を最大限に活かし、未来を先取る取組に挑戦するための「“選ばれるまち SASEBO”を創るシティブランディング・プロジェクト」を始動させました。このプロジェクトは、第 7 次総合計画（後期基本計画）から特に人口減少対策に有効な取組を特出しして、「子育て」「産業」「地域資源」「文化」の 4 つの柱を中心に、令和 6 年度は R U N - U P（助走）期間と位置づけ、プロジェクトの本格始動に向け事業に取り組みました。

最終的に、基金の残高は前年度より増加し、目標としていた金額を確保できていること、市債残高についても約 53 億円減少させることができたこと、また、シティブランディング・プロジェクトをはじめ、第 7 次総合計画（後期基本計画）に掲げる施策を積極的に展開できたことなどを含め、総じて堅調な財政運営ができたものと考えています。

しかし、佐世保市は自主財源に乏しいことから、財政的に安定しているとはいえません。また、今後“選ばれるまち SASEBO”の実現に向けた新たな施策展開や社会経済状況の変化により行政が担うべき新たな政策課題にも適切に対応していく必要があることから、引続き歳入・歳出両面からの収支改善策の断行が必須となっています。



**未来へつなぐ ゼロカーボン！**  
**ZERO CARBON CITY**  
**SASEBO**